

トライアングルプロジェクト研修会を開催しました

令和7年9月16日（火）15時30分から17時、泉佐野市立社会福祉センター2階大会議室にて、児童発達支援センター主催研修（3回連続講座）を開催しました。市内の小中学校、幼稚園、こども園、障害児通所支援事業所、障害児相談支援事業所、行政機関など、35名の参加がありました。

3回連続講座では、『家庭・教育・福祉の連携推進に向けて』をテーマに、子どもに関わる市内の各機関の支援者が、お互いを知り、役割を共有できる場を設定しました。

第1回は研修前半を、講師に、大阪府発達障がい者支援センターアクトおおさかの西ヶ峯佐登子先生、奥野加奈子先生をお招きし、『発達障がいと冰山モデルについて』を演題にご登壇いただきました。

講演内容は、発達障がいの理解について、疑似体験を通して自閉スペクトラム症の特性を中心に学ぶことができました。これまでは、「わがまま」や「甘え」だと思っていた子どもたちの行動や言動も、特性からくる困り感であることを知ることで、支援や配慮を行っていくことが大切であると改めて知る機会となりました。また、子どもの行動にかくれた特性や思い、環境要因について、冰山モデルを活用しながら支援や配慮を考えていくことの大切さも合わせて学ぶことができました。まとめには、支援者同士が共通言語をもって情報共有することが、他機関と連携を進めていくために重要であるとお話しもいただき、次回以降の研修につながる講演となりました。

講演後は、グループに分かれ研修内容の共有をしました。「あいまいな言葉を使ってしまいうことがあるが、今回の体験の中で難しさを理解することができた。」「一人ひとり脳の認知特性や得意苦手が違うこと知り、個々の特性に合わせていくことが必要だとわかった。」「連携や情報共有が大切だが、実際には難しい。それぞれの忙しさに追われていることが多いのではないかなと思う。」といった意見の交流ができました。

次回は、『事例を通して連携を考える』をテーマに、同じグループで連携の必要性や課題について、より深く情報共有をしていく予定にしています。

